

## SDGs 世代に贈る！ 「こどもと社会をつなげるゲーム」デザイン

SDGs 世代とは、こどもとは何でしょうか。そして私たちはどのような社会をこどもとつなげたいのでしょうか。そうした問いから本科目は始まります。履修生は課題と解決策としてのゲームを1年間かけて考えてきました。しかし授業は完成していません。みなさんが社会に飛び出した時にゲームを外に広めたり、1年間で気づいた学びを生かしたりして活動することで初めて授業は完成します。私はそうして完成する日を楽しみに待っています。また本科目には毎回、様々なゲストにお越しいただきました。授業で生まれた大学外のつながりを大事に社会とつながっていく。このような形のアクティブラーニングが出来ることもプロジェクト科目ならではの醍醐味だと思います。

## 留学生と創る！京の台所錦市場（食文化） マイクロツーリズム読本

読本製作とそれを使用しての授業、さらには外部イベントの実施など、教室内にとどまらず様々なことに挑戦していましたね。特に12月ごろはそれらの活動が全て重なった時期で、とても大変だったことと思います。

また、新たにチームを再編成しなければならないという問題にも、後ろ向きになることなく、チームの成長のためのひとつの機会として、新たなリーダー・サブリーダー中心に上手く対応できていたように思います。

こうしたチームの頑張りがあったからこそ、本プロジェクトの授業・イベント等に参加してくれた留学生たちも、京料理について理解を深め、様々な形で発信してくれたのだと思います。

1年間本当にお疲れさまでした。

## 京都の伝統織物ができるまで —オンライン体験を考える—

この科目には昨年度履修生として参加し、チームで1つの目標に向かって、自分たちでイベントを企画・運営する面白さと大変さを学びました。今年度は4名という少ない履修生でしたが、私と同じような学びを今年度の履修生の方々が感じてくださっていると、SAの私も嬉しく思います。他団体も巻き込み企画運営を成し遂げた皆さんの活動が、今後のプロジェクト科目としての活動のモデルになると思います。至らぬところもあったと思いますが、1年間サポートという視点でプロジェクト科目運営に携わらせていただき、誠にありがとうございました。

## “with コロナ時代”の コミュニティカフェのデザイン

21世紀型スキルが求められる今の時代、人々は「答えのない問い」に挑戦し続けなければならない。日々思考することを鍛練し、社会という組織の一員として我々はどうに貢献することができるのかを考えることが重要である。その鍛練の場としてプロジェクト科目は学生たちにとって最適な場所だったのではないだろうか。

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、人々が交流できる居場所の運営が困難になった。“with コロナ時代”に即した居場所の提供をどのようなテーマでどうデザインしていくのか、さまざまなアイデアを出しながら話し合う様子を私はSAとしてそばで見守ってきた。社会における人とのつながりの重要性を多角面から考え、地域の問題を他人事として捉えるのではなく自分事として捉えられるような意識や態度が身についた学生が多いのではないかと思う。“with コロナ時代”の未来は明るい。

## 京都・伏見で酒ツーリズムのしくみをつくる

このプロジェクトでは、みんながそれぞれ自由に活発に活動することができていたと思います。毎回の講義ではリーダー以外の人も司会をして話を進めたり、個人それぞれがいろんな意見を出し合ったりして、みんなの意見が集まったからこそできるツアーをつくることができたと思います。誰一人受け身な人がおらず、能動的にツアーづくりに参加していて、安心してみんなの活動を見ていることができました。

講義の中で、お酒は大学生にとって身近なものである一方で、危険を伴うものでもあるということを学びましたが、それを意識しながらお酒の良さや歴史を伝えることができる良いツアーになったと思います。メンバーの皆さん、先生、一年間お疲れ様でした。

## クリエイティブな映像制作で インターネットの安心安全を守る！

昨年度に引き続き、本年度はSAとして本プロジェクトに携わらせて頂きました。昨年度のリーダー経験から何かサポートできることがあればと思っておりましたが、リーダーを中心に輝かしい成果を残してくれた履修生の皆さんには、私も学ばせて頂くことが多かったです。特に先生方も含め、「ワンチーム」という言葉がふさわしいチームで、一緒に最後まで活動できたことを光栄に思います。是非履修生の皆さんには本プロジェクトで学ばれたことを活かして今後も活躍してほしいと思います。本当にお疲れ様でした。最後になりますが、3年間のプロジェクト活動を通してお世話になりました先生方、事務局、履修生の皆さん、本当にありがとうございました。

## 京丹後移住促進プロジェクト ～新たな地方移住の仕組みづくり～

履修生の皆さん、1年間お疲れ様でした。プロジェクト活動を通し、メンバーとの役割分担の難しさだけでなく、地域との協業が必須のプロジェクトならではの難しさに頭を悩ませ続けた1年間だったと思います。しかし、だからこそ各々の長所短所への気付きを得たり、長期的な課題解決や他者との協働のやりがいを感じたりできる貴重な時間だったのではないのでしょうか。

私自身が2021年度の京丹後移住促進プロジェクトでリーダーとして活動したからこそ、昨年度から続く住民の方々との関係性を維持し「地域の課題は何か」「住民の方々にとどのように伝えれば良いか」と真摯に議論を重ねていた皆さんを心から尊敬しています。プロジェクトとしての活動は終了ですが、この経験を自身の糧とし、今後も一緒に京丹後地区に訪問できたらとても嬉しいです。

1年間本当にお疲れ様でした。

## 伝統を未来へつなぐために 古典籍の魅力を子どもたちへ

縁あって一年間、皆さんの活動を陰で見守っていました。少ない人数で、古典籍の知識を吸収することから始めた皆さんが、後に様々な企画を考案していく様子は印象的でした。皆さんの強みはその粘り強さ、知識を得ることの貪欲さにあると感じています。

このプロジェクトを通して、自分より知識の少ない子供を相手にどれほど古典籍の魅力を伝えられるか相当苦勞をして、また失敗を重ねたかと思います。また、今までの自分たちのやり方ではない方法を知り、反発したい気持ちも生まれたことでしょう。それらを乗り越えることができたなら、今後見える景色もきっと変わることでしょ。このプロジェクトをきっかけにして、皆さんの更なる成長を祈り応援しています。一年間、お疲れ様でした！

## 未来につなぐ！ 世界と日本の着物絵本制作プロジェクト

この一年間の活動を通して、履修生の皆さんは、西陣織を一から学び、着物製作の工程を絵本で伝えられただけでなく、プロモーションを三回実施するなど、着物の魅力を次世代に発信することができました。

履修生が5人という少人数の中、目標達成のために、メンバー一人一人が自分の役割をしっかりと担い、積極的に取り組んでいた姿が非常に素晴らしかったと思います。

私は、TAという立場で、フィールドワークやディスカッションなどの活動にも一緒に参加しましたが、皆さんとのコミュニケーションを通して、たくさんの気づきや学びを得ることができ、貴重な経験をさせていただくことができました。

最後になりますが、履修生の皆さん、この一年間本当にお疲れ様でした！